



秋田スキークラブ 今昔と託された夢に向け

秋田スキークラブ

会長 川辺 金光

—秋田スキークラブ今昔—

秋田スキークラブは大正 15 年 11 月にスキー技術の追求と普及、発展を目的として創設され、90 余年の歴史を有しております。クラブが創設した同年 12 月は、年号が大正から昭和へ移行した年であり、創設へ至るまでの数年間の活動期間を考えますと、秋田スキークラブは大正、昭和、平成の年間をスキーの普及活動に努めて来ことになります。とくに、創設時の我が国社会状況、スキー用具やスキー場などのスキー環境を考え合わせると、東北秋田でのスキークラブ創設は驚愕に値します。また、創設からの長い歴史の間には多くの困難もあったと聞いております。

さて、現在の秋田スキークラブはたざわ湖スキー場、Opas スキー場を中心に、一般講習やクラブ員研修などの活動を行っています。また、10 年を節目として創立式典・祝賀会を行い、その間の活動内容や会員の動向を年表としてまとめ記念誌に記録してきました。その中で、年表の最初の数行には我が国におけるスキーの事始めとクラブ創設の経緯や関連性が記載されています。これまで、この数行の部分に関する詳細な記録や資料は残っていないとされていました。しかしながら、今年になって引き継ぎ資料の整理中に創設前後の活動内容を記録した貴重な資料やメモが見つかりました。そこには、先人達のスキーへの想いと指導への情熱、スキースポーツの果たす意義についても綴られております。また、スキーの原点を再確認させられる内容となっています。

—託された夢に向け—

秋田スキークラブの特徴としては、会員の多くの方々が 3 級、2 級、1 級、そしてクラウン、テクニカル、さらに、有資格者と一歩ずつ技術力を高めていることです。秋田スキークラブが今後さらなる飛躍を果たすには、こうした特徴点を活かしながら時代に即したクラブ運営を行うことが必要と考えています。このことは先人たちが我々に託した強い想いの実現であり、我々に託された使命と考えています。

ところで、最近の我が国スキー業界は少子化やスポーツの多様化により非常に厳しい状態にあり、県内の各クラブの運営、クラブ員の確保などに課題を抱えている状況にあると言えるでしょう。こうした状況の中、秋田スキークラブでは、これまでのクラブ運営方法には限界があると考え、新しい方法での会員確保と普及活動に努めています。たとえば、昨年度はジュニアやシニア会員を含む会員募集にあたってはクラブ活動に関わる情報をホームページの開設により積極的に発信しております。また、クラブ会員のニーズにあつた講習内容とするため映像機材や通信機器の使用、マーカーやショートスキーなどを利用した効果的な指導を進めています。昨年度は講習会において、同時会話のできる小型の通信器機を使用し、指導者と受講者が感覚や技術的な面をリアルタイムで滑走中に伝え合う試みを行い、同機がスキー上達や安全確保の面で非常に大きな効果のあることを確認しております。また、クラブ員研修会としてたざわ湖で開催されたモーグルワールドカップで使用した斜面を、大会終了直後にモーグル関係者の指導を受けながら滑りました。この研修ではモーグル技術と基礎スキー技術の共通点を学びレベルアップに繋げることができました。その他、秋田市の補助事業の採択を受けショートスキーと安全ロープなどの補助具を活用した講習会を開催し、各補助具が制動操作や長距離滑走に効果のあることを確認し、今後の講習会へ導入することを決めております。

最後に、秋田スキークラブは現在の厳しいスキー環境を嘆くことなく、創設時の苦難を今一度胸に秘め、未来へ託した先人達の夢であるスキーの魅力を多くの方々へ伝える努力を重ねる所存です。

秋田県スキー連盟および各クラブ関係者の皆様には、今後ともご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。